



その6 「みんなのほうがとくいなこと」

(すぴんちゃんが泣いている)

ピョンピュータ 「どうしたの？すぴんちゃん。」

すぴんちゃん 「あのね？僕の友達の、おびかちゃんが遠くへ引越しをすることになったんだ。すごく悲しいよ。」

ピョンピュータ 「そっかあ。それは残念だね。」

すぴんちゃん 「うん。大切な友達と、お別れをしないといけない時って、僕は何をしたらいいのかなあ？わからないよ。ねえピョンピュータ。一緒に考えてよ！僕は何をしたらいいと思う？」

ピョンピュータ 「・・・・・・・・・・。」

すぴんちゃん 「ねえピョンピュータってば！」

ピョンピュータ 「・・・・・・・・・・。」

すぴんちゃん 「えー！どうしたの？ピョンピュータ！」

ピョンピュータ 「あ、あのね、僕はパソコンなんだ。パソコンには実は苦手なことがあるんだ。」

すぴんちゃん 「苦手なことって？」

ピョンピュータ 「実はパソコンはみんなと違って、自分で考えたり、自分でやって

みたりということが苦手なんだ。だから大切な友達とお別れをしないといけない時、何をしたらいいかを考えたり、その考えたことを実際にやってみたりすることは、すぴんちゃんじゃないと、できないことなんだ。」

すぴんちゃん 「そうなんだ。」

ピョンピューター 「例えば、学校でパソコンを使う時も一緒だよ。パソコンは便利だけど、パソコンも鉛筆や消しゴムと同じ仲間、つまり道具なんだ。使うのは君たち、いろいろな難しい問題を考えたり、実際にやってみたりして、クリアしていくのもみんなの方が得意なんだ。」

すぴんちゃん 「そうなんだね。」

ピョンピューター 「じゃあ、3つクイズを出すね！今から言うことは、みんなとパソコン、どっちが得意かな？」

ピョンピューター 「（すぴんちゃんの声で：とうちゃーく！さーて、どんな写真を撮ろうかなあ？あの木、かっこいいなあ。あの猫もかわいいし。鳥も一羽だけ撮ろうかな。それとも全部入れて撮ろうかな。）『どんな写真を撮るか考える』。みんなとパソコン、どっちが得意かな？動画を一度止めて、先生と一緒に考えてみてね。」

すぴんちゃん 「みんなとパソコン、どっちが得意か、わかったかな？」

ピョンピューター 「『どんな写真を撮るか考える』は、『どれがいいかなあー。あれが面白そうだなあ。撮ったあと、どうしようかなあ。』って、いろいろ自分で考えるから、みんなの方が得意だね！」

ピョンピューター 「じゃあ次の問題にいくよ。今から言うことは、みんなとパソコン、どっちが得意かな？『見たものをずーっと覚えておく』。（す

ぴんちゃんの声：えっと。木が左に2本あって。その木の下に赤い首輪をした灰色の猫がいて。右に木が1本あって。その木には白い鳥が。んー。) みんなとパソコンどっちが得意かな？動画を一度止めて、先生と一緒に考えてみてね。」

すぴんちゃん 「みんなとパソコン，どっちが得意か，わかったかな？」

ピョンピューター 「『見たものをずっと覚えておく』のは，パソコンのほうが得意だね！」

すぴんちゃん 「どうして？」

ピョンピューター 「パソコンには，カメラの機能があるからね！カメラで写真を撮れば，その写真をパソコンは，ずっと覚えておくことができるよ！例えばすぴんちゃん。一週間前の天気，覚えてる？」

すぴんちゃん 「えーっと。どうだったっけ？」

ピョンピューター 「はいこれ，一週間前に，すぴんちゃんが撮った写真。」

すぴんちゃん 「そうそう思い出した。カタツムリが可愛かったから写真撮ったんだよね。あ！雨が降ってるね！一週間前の天気は雨かあ。人間も覚えることはできるけど，覚えることは，パソコンの方が得意そうだね。」

ピョンピューター 「その通り！パソコンは写真以外のことでも，覚えることがみんなよりも得意だよ。ちなみに，パソコンがいろいろなものを覚えることを『保存』と言うよ。」

すぴんちゃん 「保存だね！」

ピョンピューター 「じゃあ最後の問題にいくよ。『実際にあさがおを大きく育てる』。みんなとパソコンどっちが得意かな？動画を一度止めて、考えてみてね。」

すぴんちゃん 「みんなとパソコンどっちが得意か、わかったかな？」

ピョンピューター 「実際にあさがおを大きく育てるためには、あさがおの様子を、毎日、見に行って、水をやったり、草を抜いたり、お世話をしなければならぬ。つまり、みんなの方が得意。みんなでないといけないことだね。」

すぴんちゃん 「そうだね。『実際にやってみる』も、パソコンよりも、みんなの方が得意だったね。」

ピョンピューター 「すぴんちゃん！パソコンが得意なこと、反対にみんなの方が得意なこと。だんだんわかってきた？」

すぴんちゃん 「うん！わかってきた！パソコンは便利な道具だけど、自分で考えたり、自分でやったりすることは、パソコンよりもみんなの方が得意なんだね。」

ピョンピューター 「その通り！」

すぴんちゃん 「だから、コンピュータに頼るばかりじゃなくて、自分の頭で考えて、自分で行動することが大切だね。」

ピョンピューター 「まさにその通り！」

ピョンピューター 「で！？どうするの？おびかちゃん、引っ越しちゃうんでしょ？すぴんちゃんは何ができるかな？考えて、実際にやってみるのは、すぴ・」

すぴんちゃん 「わかってる！これは僕にしかできないことなんだ！んー。そう  
だ！じゃあプレゼントを渡そうと思う！」

ピョンピュータ 「おお！それはいいね！何あげるの？」

すぴんちゃん 「んー。離れ離れになるけど、僕との思い出は忘れないで欲しい  
な。忘れないようにしてもらうためには・・・そうだ！ピョンピュ  
ータ！ちょっとこっち来て！」

すぴんちゃん 「確かこの前、おびかちゃんと撮った写真があったよね？あれ出し  
て？」

ピョンピュータ 「え？その写真はこれだよ！何に使うの？」

すぴんちゃん 「おびかちゃん。元気でね。これプレゼント。二人で遊んだ時の写  
真にメッセージを書いたよ。僕に会いたくなったら、それを見て  
ね。僕のこと忘れないでね。」

おびかちゃん 「うん。ありがとう。プレゼント大切に作るね。ずっと忘れない  
よ。」

すぴんちゃん 「ピョンピュータ。ありがとね。プレゼント、おびかちゃんが喜ん  
でくれた。」

ピョンピュータ 「僕は、二人の写真を保存してただけだよ。その写真を撮ろうっ  
て考えたのも、写真をプレゼントしようって考えたのも、そして、  
実際にプレゼントを作ったのも、すぴんちゃんだよ。」

すぴんちゃん 「うん。自分で考えてよかった。これからも大切なことは、自分で  
考えて、その考えたことを、ちゃんとやってみようと思う。」

ピョンピュータ 「うん。手伝えることがあったら、なんでも言ってね。」

すぴんちゃん 「でも、寂しいなあ。会いたいなあ。」

ピョンピュータ 「それなら僕に任せて。」

(シーンが変わる)

おびかちゃん 「やあ！すぴんちゃん！久しぶり！そっちは元気？」

すぴんちゃん 「元気！元気！」

おびかちゃん 「場所は離れてるけど、パソコンを使えばビデオ通話で遠くの人ともお話ができる便利だね！」

すぴんちゃん 「ホント便利だよね！」

すぴんちゃん 「今日のまとめをするよ！パソコンは便利だけど、自分で考えたり、自分でやってみることは苦手だよ。その考えたり、やってみることはパソコンよりみんなの方が得意だよ。だから、パソコンに頼るだけじゃなく、自分の頭で考えて、自分で行動することが大切だよ！」

ピョンピュータ 「じゃあ、今日はおしまいだピョン！バイバーイ」